

福祉×食 可能性は無限大

株式会社 WhomLab

代表取締役 西 真人さん

住所：〒831-0016 大川市酒見152
TEL：0944-8616600
キッチンおひとつや
HP：<https://gluseller.com/jp/ohitotsuya>

今回の夢追い人は、株式会社 WhomLab 代表取締役 西 真人さんにお話を伺いました。
改めて事業内容を教えてください。



おおかわみらい食堂の様子

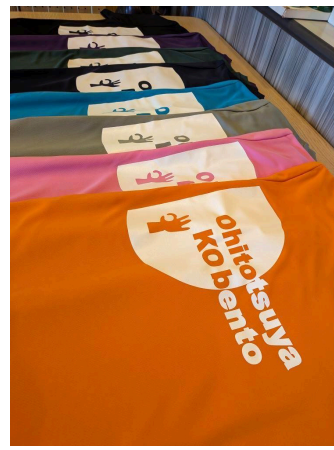
「私たちの会社では、障がい福祉サービスの一環として、就労継続支援A型事業と共同生活援助（グループホーム）事業を中心に活動しています。A型事業所では、利用者さん達が実際に働ける場所として、配達専門の「キッチンおひとつや大川」もう一つは商店街の中にあるテイクアウト専門の弁当屋「KO弁当」を運営しています。そして毎週金曜日には大川市役所売店前で対面販売も行っています。私自身も配達に行くこともあり、企業の方や高齢者の方々と楽しく話をさせていただくこともあります。また、令和6年8月からは「おおかわみらい食堂」という新しい取り組みもスタートしました。月に一度、日曜日に宮内公民館で

開催していて、大学生や中学生がボランティアとして協力してくれているので、和気あいあいとした雰囲気になっています。」

WhomLabはどのような想いで立ち上げられたのでしょうか。

「私は創業者ではないのですが、以前創業者の方から話を聞いたことがあり、「障がいや病気を抱えている方たちのために、少しでも役に立てるような事業ができないか」といった想いから、大川市内で就労継続支援A型の事業を立ち上げたそうです。その想いがあったからこそ、途中で2代目にバトンが渡され、そして令和3年からは私が引き継がせていただいています。そ





れまで私は、地元・鹿児島で約20年間 福祉の仕事に携わってきたんですが、ご縁があった。そこから商工会議所や商店街振興組合、倫理法人会などの団体にも加入させていた

だき、本当に色々なことを学ばせてもらっていますね。『WhomLab(フームラボ)』には、「誰にでも夢があり、それをみんなで創っていきましょう!」という願いを込めています。単なる支援じゃなくて、夢と一緒に育てていく場所でありたいですね。」

全国的にも子ども食堂が増加している中で、おおかわみらい食堂を始めるきっかけは何だったのでしょうか?

「大川市内で行われたとある研修に参加したとき、スクールソーシャルワーカーの方に「大川にもまともに食事がとれない子供たちがいる」という話を聞きました。正直とても

衝撃を受けたのと同時に、「福祉と食をベースにしている会社として、何かできないだろうか?」という想いが湧いて

きました。そのタイミングで、大川市社会福祉協議会主催の講演会で、実際に沖縄で先進的に子ども食堂に取り組んでいる方のお話を聞いて、「これなら自分たちにもできるかもしれない!」と火がついたんです。おおかわみらい食堂は貧困家庭向けという枠ではなく、どなたでも、どんな状

況の方でも気軽に参加できます。食事だけでなくレクリエーションなども行っているので、世代を超えて楽しく過ごせる場になっています。そして、おおかわみらい食堂を一番応援してくださっているのが、タンスのゲン(株)さんです。ありがたいご縁があり、活動を支援していただいています。こうした企業さんが活動に賛同してくださることは本当に心強いです。私自身、大川出身ではないので、知り合いも少ない中で、大川の方たちがあたたかく手を差し伸べてくださったおかげで、活動ができています。地域の力は本当にすごいと感じましたね。」

WhomLabの強みを教えてください。

「弊社の強み、障がいや病気を抱えている方たちの可能性に満ち溢れているところとそれを引き出しているスタッフがいることだと思っています。うちでは、みんなが戦力。誰にだって、得意・不得意、できること・できないこととあってあるじゃないですか。大事なのは、そこにどう周りが向き合うかなんですよね。」「こ

の人にはこれができる」「じゃあ、こういう形で力になってもらおう」って、みんなの強みをどう生かしているかを、私たちはいつも考えています。そうやって、一人一人の能力を引き上げていくことが、結果としてうちの強みにもなっているんです。」

利用者さん一人一人の強みを生かすために、大切にしていることは何でしょうか。

「こちら側の関わり方だと思います。伝え方、支援の仕方ひとつで、利用者さんの理解の仕方や行動って全然変わってくるんですよ。試行錯誤する中で、私たち自身がいろんなことを学ばせてもらっています。」

むしろ、課題やうまくいかないことがあるからこそ、どうしたら伝わるだろう?って考えるきっかけをもらえる。そういう経験の積み重ねが、結果として私たち自身の力を伸ばしてくれているんだと思っています。相手のことを理解していないと、その人に合った指示や説明ってできないですし、そもそも信頼関係も築けません。だから私たちは、常にどう関わるか、どう

伝えるかを大切にして向き合っています。」

福祉と食をつなげる様々な活動を展開している西さん。そんな西さんの夢は何でしょうか。

「私は大川が大好きです。この5年間は太田でたくさん素敵な人に出会い、助けられたことが何度もありました。その経験が、私の今につながっています。だからこそ今、「おおかわ100人未来カイギ」をやりたいです。これは老若男女、世代や立場を超えて集まり、大川の未来について自由に語り合う場。子どもたちの声も聞きたいし、長年住んでいる方々の想いも知りたい。団体同士も垣根を越えて話し合えたらすごくワクワクする街に向かっていくと思います。多世代交流、経済交流、人材育成、色々な可能性が生まれていくと信じています。そして、大好きな大川と鹿児島を線でつなぎ、地域活性につながるような事業を育てていくことがもう一つの夢です。おおかわみらい食堂も継続しつつ、学生さんや地域の方と一緒に作り上げていくものに発展させていきます。」